

熊本県

県南広域本部 球磨地域振興局 森林保全課  
山方香代

高校生を対象とした地域ぐるみの若手狩猟者の育成と狩猟文化の継承

1 テーマの趣旨・目的

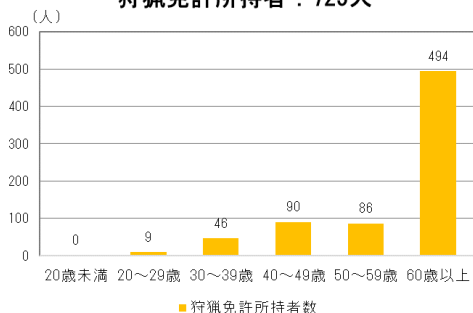
野生鳥獣による農林水産業被害対策の取組みは、生産者や市町村等において継続的に行われているが、鳥獣被害は依然高いままである。また、捕獲従事者の中心は狩猟者が担ってきたが、管内の狩猟者の約7割が60歳以上と高齢化が顕著であり、今後の捕獲活動の維持のためには狩猟者の若返りが必要。このことから、球磨地域振興局では、狩猟者の新たな担い手の確保育成を目的として、管内にある県立南稜高校の生徒を対象に地域ぐるみの若手狩猟者の育成を行った。

2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

(1) 現状

- ・有害鳥獣の捕獲活動の中心となる球磨管内の狩猟免許保持者は、令和2年度時点で約700名であるが、そのうち30歳以下は9人(約1%)と若手が極端に少なく、このままでは捕獲活動の継続が困難。
- ・銃による集団狩猟から罠による単独狩猟への移行が進み、駆除技術等の継承が危機的状況。
- ・市町村では、狩猟免許取得経費に対する助成はあるものの狩猟技術等の継承を含めた若手育成までの踏み込んだ支援はなかった。
- ・農林業系のコースがある南稜高校(あさぎり町)では、教科書の内容に留まらない狩猟や農林業被害対策についての学習を要望。

狩猟免許所持者：725人



(2) 取組内容

・狩猟等の学習を検討しながらも関係者と調整する時間的余裕がない高校、若手育成等を担う人的余裕のない町、町や高校との関係が希薄だった地元猟友会という3者の仲介や調整を林業普及指導員が中心となって行った結果、町からは経費支援、猟友会からは技術支援を取付け、高校生の学習段階に応じた鳥獣被害の実態学習や罠の設置研修、ジビエ料理教室等の実施を支援した。



(3) 成果

- ・令和2年度から本取組みを始めた結果、狩猟に興味を持った生徒が、令和3年度4名、令和4年度4名の計8名が受験し、計6名が合格。
- ・この取組みを通じて、関係者同士のつながりができ、関係が良好となったことで、高校は直接ハンターから狩猟文化や野生鳥獣の被害対策を学び、町は猟友会に依頼する有害鳥獣駆除活動が円滑となり、猟友会は世代を超えた狩猟文化の継承を効果として実感。
- ・本取組みは、有害鳥獣対策の基本である「地域ぐるみの取組」であり、他の地域においても有効と考えられる。

	令和3年度		令和4年度	
	受験者	合格者	受験者	合格者
わな猟	4	3	4	3
網猟	4	1	4	2

(4) 課題

- ・狩猟免許を取得しただけでは、捕獲頭数が向上するとは限らない。
- ・経費について、現在は県と町で予算化し、確保しているが、予算化されなかった場合、今後継続が困難となる可能性がある。
- ・高校では、授業時間が決められており、日程調整や移動手段の確保調整に配慮が必要。
- ・今後、林業普及指導員等の仲介が無くても、地元関係者で活動が継続できる体制にする必要がある。

**3 今後取組むべき内容**

① 具体的手法又は検討方向

今後は若手の狩猟免許の取得促進は継続しつつ、ベテランハンターによる初心者向けの捕獲技術向上のフォローアップ講習会や、狩猟文化継承のため、世代を超えたハンター同士の交流支援へと活動を発展させていく必要がある。

② 理由

狩猟免許を取得しただけでは、捕獲頭数が向上するとは限らない。また、現在主流となっている罠による捕獲は、単独行動が多く、捕獲技術だけでなく、狩猟マナーやジビエ等の狩猟文化を学ぶ機会が乏しいため、初心者の捕獲活動継続には、免許取得後の初心者支援が有効と思われるため。

③ 期待する成果

- ・捕獲技術向上による捕獲頭数の増加。
- ・初心者の狩猟マナー習得による捕獲活動の円滑な実行。
- ・球磨地域は古くから猪肉を好む地域であり、地域の食文化の継承による地域への愛着の醸成。

